

# 技術情報

JA全農やまぐち

TAC・営農推進課(083-988-0681)

平成26年8月26日発行

第194号

## I 平成26年度 第5回 水稻生育診断情報

山口県農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理資料(N06)を基に技術情報を作成しました。  
水稻栽培の管理指導にご活用ください。

### 1 気象状況

- ・8月第1半旬は、台風12号の影響により降水量が多くほぼ無日照で推移した。
- ・8月6日未明に岩国市を中心に時間雨量100ミリを超える大雨が降り、県東部で水害が発生した。
- ・8月第1半旬以降、著しい寡少天候となり、8月1日～20日までの日照時間は平年の28%に留まった。
- ・8月第1～3半旬の最高気温及び第2～3半旬の最低気温は過去10年間で最も低く推移したが、最高気温が平年に対して1～3℃低かったのに対して、最低気温は概ね平年並み～1℃たかかった。

### 2 生育概況と今後の管理

(1) コシヒカリ、ひとめぼれ、晴るる（5月上～下旬植え）

#### ①生育の概況

- ・概ね平年並み～やや早く出穂したが、8月初旬以降の寡照、低温により登熟は遅れている。
- ・高冷地でのいもち病の発生は比較的少ないが、中間地帯において上位葉への進展、穂いもちの発生が多い。

#### ②今後の生育と管理

- ・7月末～8月初旬に出穂した稲は、湛水期間を終了して落水期に入るが、地耐力に応じた落水を行う。
- ・今後も日照時間が平年の30%程度で推移した場合、成熟期は2日～4日遅れると予想される。また、本年は一穂中の熟れムラが大きいと考えられ、収穫時の水分が平年より高いと予想されることから、急激な乾燥調整を行わないよう注意する。
- ・葉いもちが上位葉に進展している場合、また穂いもちの発生が多い場合は、収穫前日数を確認した上で、速やかに補完防除を行う。

◎病害虫防除については、後述の病害虫の発生状況の項を参照

(4) きぬむすめ（5月下旬～6月上旬植え）

#### ①生育の概況

- ・5月中旬移植の稲は、平年より3日程度早く出穂期を迎えた。
- ・6月上中旬移植では、概ね平年並みの出穂期であった。
- ・出穂期の葉色は平年並み～やや淡い。

#### ②今後の生育と管理

- ・出穂後20日までは湛水管理を継続するが、必要以上に深水とならないよう注意するとともにこまめに用水の入れ替えて根の活力維持を図る。
- ・葉いもちの発生が県内で多くなっていること、クモヘリカメムシの発生量が多いことから、穂揃い期の基幹防除は必ず行うとともに、必要に応じて補完防除を行う。
- ・収穫期が9月中旬以降となる稲では、トビイロウンカの発生を随時確認するとともに、発生情報に留意して、防除を徹底する。

◎病害虫防除については、後述の病害虫の発生状況の項を参照

## (5) ヒノヒカリ (6月上旬植え)

### ①生育の概況

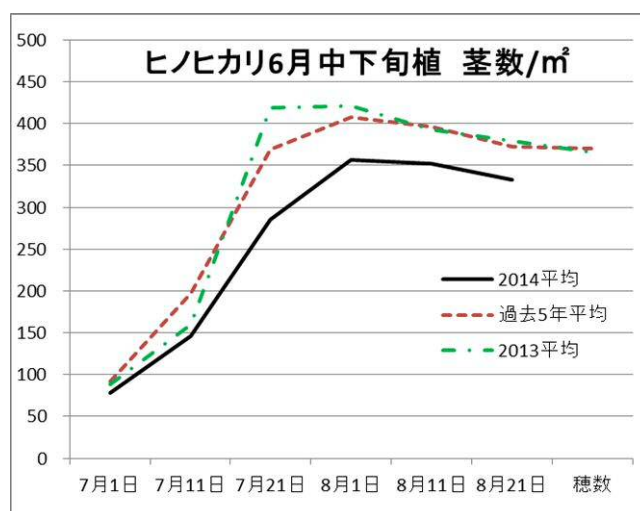
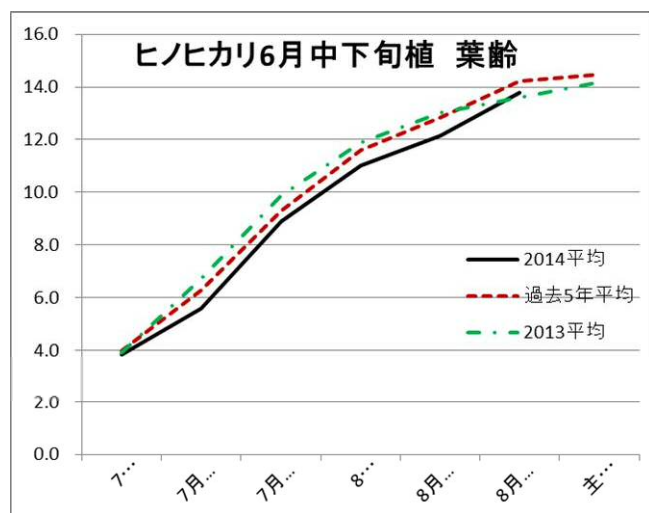
- ・5月中下旬移植の稲は平年並み～やや早く出穂期を迎えた。
- ・6月移植の稲は、8月25日前後に出穂すると予想され、平年より1～4日程度遅い
- ・茎数は平年並み～やや少なく推移している。
- ・葉色は概ね平年並み～やや濃くなっている。

### ②今後の生育と管理

- ・出穂後20日までは湛水管理を継続するが、必要以上に深水とにならないよう注意するとともにこまめに用水の入れ替えて根の活力維持を図る。
- ・平担部の稲でも葉いもちの発生が確認されていること、カメムシ類が多発していることから、穂揃い期の防除を必ず実施するとともに、必要に応じて補完防除を行う。
- ・トビイロウンカの発生を随時確認するとともに、発生情報に留意して、防除を徹底する。

◎病害虫防除については、後述の病害虫の発生状況の項を参照

## (6) ヒノヒカリ (6月中下旬植え)



### ①生育の概況

#### 【葉齢・生育ステージ】

- ・8月11日時点で葉齢は平年より0.4葉程度遅れている。

#### 【草丈】

- ・草丈は平年並み～やや短く推移している。

#### 【茎数】

- ・m<sup>2</sup>当り茎数は平年を40本程度下回っている。

#### 【葉色】

- ・葉色は平年より淡い。

### ②今後の管理

- ・葉齢がやや遅れ気味であることから、出穂期は平年よりやや遅れると予想される。
- ・出穂後20日までは湛水管理に継続するが、必要以上に深水とにならないよう注意するとともにこまめに用水の入れ替えて根の活力維持を図る。
- ・平担部の稲でも葉いもちの発生が確認されていること、カメムシ類が多発していることから、出穂前後の基幹防除は必ず実施するとともに、必要に応じて補完防除を行う。
- ・トビイロウンカの発生を随時確認するとともに発生情報にも留意して、防除を徹底する。

◎病害虫防除については、後述の病害虫の発生状況の項を参照

### 3 病害虫の発生状況

- 8月15日、**いもち病の警報**が発表されている。防除は出穂前後の2回防除を基本とする。なお、葉いもちの発生が多いほ場では、治療効果のある散布剤（ブラシン、ビーム等）で防除する。また、穂揃い期防除が終わっても、状況に応じて発生が懸念される場合は追加防除を実施する。さらに、薬剤散布の際、降雨が続く場合は雨の合間に散布することも必要となり、その場合、散布後3～4時間は降雨のないことが望ましい。
- いもち病による減収で農業共済金の支払いを申請した場合、防除を行っていないと支払金が減額されるので、特に激発地では防除指導を徹底する。
- 8月8日、**トビロウカの注意報**が発表されている。防除の目安は8月中旬以降では1株当たり5頭以上であるが、ほ場で確認されれば坪枯れの可能性があると考える。また、幼虫最盛期（防除適期）は8月22日～9月3日と予想されるが、ほ場で齢期を確認する。なお、防除に際しては、株元に十分薬剤がかかるように散布する。散布後、防除効果を確認して本虫がいれば再度防除を実施する。
- **斑点米カメムシ類**について、クモヘリカメムシの雑草地での密度、予察灯での誘殺数が多いため、注意報が発表されている。対策は、出穂2週間前までに畦畔の草刈りを実施し、その後、雑草の穂が出ないように管理し、穂揃期に防除を実施する。なお、クモヘリカメムシ等の大型のカメムシ類に対して、粒剤の効果は劣るので注意する。

### 4 現地の水稻の生育状況

- 萩市 むつみ吉部 「コシヒカリ」 定点ほ場(8月22日)

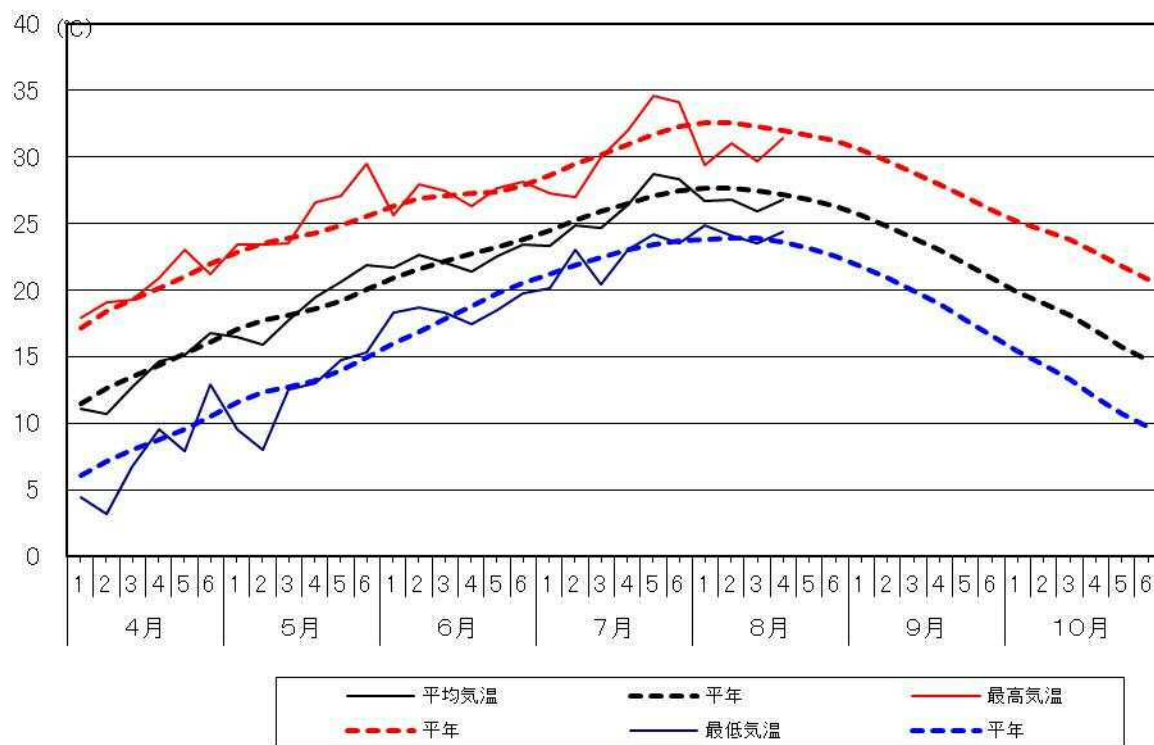


「コシヒカリ」  
(7月21日調査)  
田植え：5月10日  
草丈：84 cm  
莖数：27.9本/株  
(517本/m<sup>2</sup>)  
出穂期7月30日

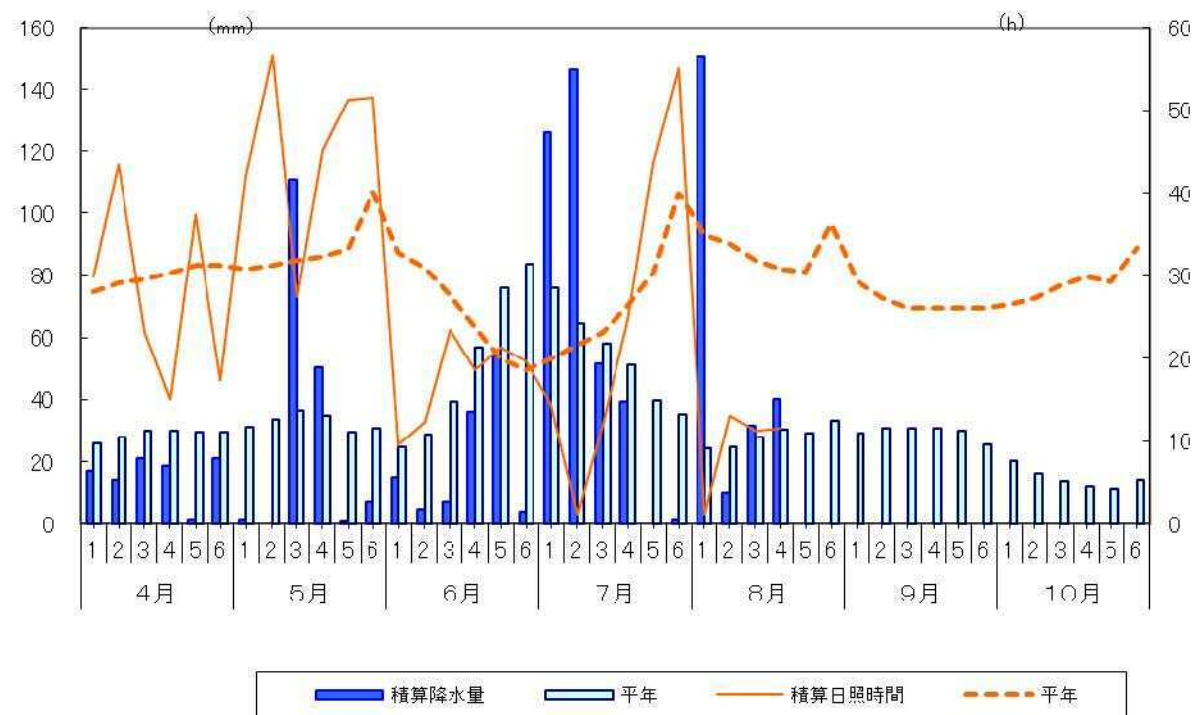
## 5 2014年度稲作期間の気象

### 1 山口アメダス

#### (1) 気温 (アメダス山口)



#### (2) 降水量・日照時間 (アメダス山口)





## 6 定点調査の生育状況

### 水稻定点調査8月21日時点の生育状況

品種	地帯	草丈		茎数/株		茎数/m <sup>2</sup>		葉齢		葉色	
			格差		格差		格差		格差		格差
コシヒカリ	長門山間	-	-	-	-	-	-	13.7	0.3	4.2	0.0
	周防山間	-	-	-	-	-	-	13.2	▲ 0.6	4.0	0.1
	長門中間	-	-	-	-	-	-	13.0	0.0	4.0	▲ 0.5
	北浦	-	-	-	-	-	-	13.0	▲ 0.3	4.1	▲ 0.1
	瀬戸内東部	-	-	-	-	-	-	14.0	0.8	4.3	0.0
	平均	-	-	-	-	-	-	13.4	0.0	4.1	0.2
	農試定点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	農試奨決	-	-	-	-	-	-	-	-	5.2	0.4
ひとめぼれ	周防山間	-	-	-	-	-	-	12.4	▲ 1.1	4.3	0.2
	長門中間	-	-	-	-	-	-	13.0	▲ 0.6	4.0	▲ 0.1
	北浦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	瀬戸内東部	-	-	-	-	-	-	13.0	▲ 0.2	4.5	0.2
	瀬戸内西部	-	-	-	-	-	-	14.0	0.9	0.0	▲ 4.5
	平均	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	農試定点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	農試奨決	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0	0.4
晴るる	長門中間	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	農試奨決	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0	0.3
きぬむすめ	長門中間	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	農試定点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	農試奨決	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒノヒカリ	北浦	-	-	-	-	-	-	14.8	0.2	4.0	▲ 0.2
	6月上旬植 瀬戸内東部	94	▲ 1	19.7	▲ 0.5	355	▲ 20	13.6	▲ 0.4	4.2	0.1
	瀬戸内西部	101	-	19.2	-	329	-	15.5	-	4.6	-
	平均	99	4	19.4	▲ 0.8	337	▲ 37	15.1	0.3	4.4	0.2
	農試奨決	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒノヒカリ	瀬戸内西部	86	3	17.7	▲ 3.3	333	▲ 40	13.8	▲ 0.4	4.0	▲ 0.3
6月中下旬植	農試定点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) 格差は過去5年間乃至は4年間の平均値との差  
葉齢、葉色の太字は止葉葉位及び出穂期葉色

### 生育ステージ

品種	地帯	移植期		8.5葉期		最高分けつ期		幼穂形成期		出穂期	
		日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
コシヒカリ	長門山間	5月12日	2	6月17日	▲ 1	7月9日	9	7月9日	▲ 1	8月3日	2
	周防山間	5月16日	0	6月23日	2	7月11日	9	7月12日	1	8月3日	0
	長門中間	5月18日	2	6月24日	0	7月1日	▲ 1	7月9日	3	7月28日	▲ 4
	北浦	5月13日	▲ 0	6月15日	▲ 2	7月1日	4	7月4日	0	7月26日	▲ 1
	瀬戸内東部	5月16日	2	6月16日	▲ 3	7月1日	3	7月4日	▲ 1	7月26日	▲ 1
	平均	5月14日	0	6月18日	▲ 1	7月6日	6	7月8日	0	7月31日	0
	農試定点	5月29日	0	6月29日		7月11日		7月14日		7月26日	1
	農試奨決	5月15日	0	6月20日		7月1日		7月2日		7月26日	1
	ひとめぼれ	周防山間	5月16日	▲ 4	6月23日	2	7月6日	▲ 1	7月4日	▲ 8	7月27日
長門中間		5月25日	3	6月23日	1	7月22日	16	7月11日	1	8月6日	6
北浦		5月25日	▲ 2	6月30日	2	7月11日	▲ 5	7月16日	▲ 1	8月4日	▲ 3
瀬戸内東部		5月24日	2	6月23日	▲ 1	7月10日	5	7月5日	▲ 6	7月30日	▲ 2
瀬戸内西部		5月31日	4	6月25日	▲ 3	7月21日	12	7月23日	12	8月4日	2
平均		5月23日	0	6月24日	0	7月12日	4	7月10日	▲ 2	8月1日	▲ 1
農試定点		5月29日	0	6月28日		7月11日		7月15日		7月25日	▲ 1
農試奨決		5月15日	0	6月18日		7月1日		7月2日		7月25日	▲ 1
晴るる		長門中間	5月22日	0	6月24日	▲ 1	7月11日	8			8月3日
	農試奨決	5月15日	0	6月19日	0	7月1日		7月5日		7月28日	0
きぬむすめ	長門中間	5月25日	▲ 1	6月26日	▲ 1	7月11日	▲ 8			8月16日	1
	農試定点	5月29日	0	6月28日		7月11日					
	農試奨決	6月10日	0	7月10日		7月21日					
ヒノヒカリ	北浦	5月24日	▲ 0	6月27日	0	7月9日	6	7月22日	▲ 4	8月18日	▲ 1
6月上旬植	瀬戸内東部	6月8日	1	7月7日	3	7月27日	4	8月1日	1		
	瀬戸内西部	6月6日	1	7月5日	2	8月6日	12	8月3日	5		
	平均	6月4日	0	7月4日	2	7月27日	7	7月31日	2		
	農試奨決	6月10日	0	7月9日		7月21日					
ヒノヒカリ	瀬戸内西部	6月22日	▲ 1	7月20日	2	8月6日	9	8月11日	4		
6月中下旬植	農試定点	6月18日	0	7月14日		8月1日					